

都内階段巡り

さかのうえの た むら まさ かず
坂上田村正和

東京は京浜東北線で上野から赤羽まで走るとわかりやすいのですが、左側は武蔵野台地、右側は縄文時代頃に始まった縄文海進で海底にあったとされています。それだけ高低差がある街ゆえにやたらと坂や階段が多いのです。その中から私のお気に入りの階段をご紹介します。ぜひとも見たいと思います。

コロナ禍で運動不足、ぶらっと行ってみたいなあ、と欲していたら幸いです。

一番のお気に入りは文京区本郷4-32にある樋口一葉菊坂旧居跡です。低層の住宅街を一步横丁に入ると突如目の前に現れるその光景は昭和、大正を通り越して明治です。右側の井戸も風情があります。階段左の扉にICHIYOU HOUSEと記されています。この階段を上ってもT字路になっており、住人が洗濯物を干していたりと立ち入ることの憚れるエリアなのですが、異次元世界への入り口のような階段で魅了されます。

周辺には徳川家康の母君や千姫の墓がある伝通院(文京区小石川3-14-6)、東大赤門や三四郎池など、もちろん食事処も学生街の大衆的なところからお洒落なイタリアンまで、盛りだくさんです。江戸時代に「本郷もかねやす迄は江戸の内」と詠まれた「かねやす」というお店(本郷2-40-11)が閉店したとはいえ残っています。このあたりが江戸の北限だったのです。



菊坂樋口一葉邸

次は新橋にある愛宕神社(港区愛宕1-5-3)。1603年徳川家康の命により防災の神様として創建。神社仏閣はやたら小高い丘の上にあります。ここは風情といい「出世の階段」の故事(徳川家光が参拝した際、誰か馬にてあの梅を取って参れ、と言われ皆尻込みする中、曲垣平九郎は急な階段を馬で上り一日にして全国にその名はとどろいたという)といい、素晴らしい聖地です。私が登った時も下を見ないで一気に駆け上らないと怖じ気づきそうな急な階段です。

今でこそ周り的高層ビルに囲まれて期待するほどの眺望は望めませんが、それでも当時を偲ぶことは十分可能です。境内には池があり春には枝垂桜も咲き、とても新橋とは思えない風情です。



新橋愛宕神社下

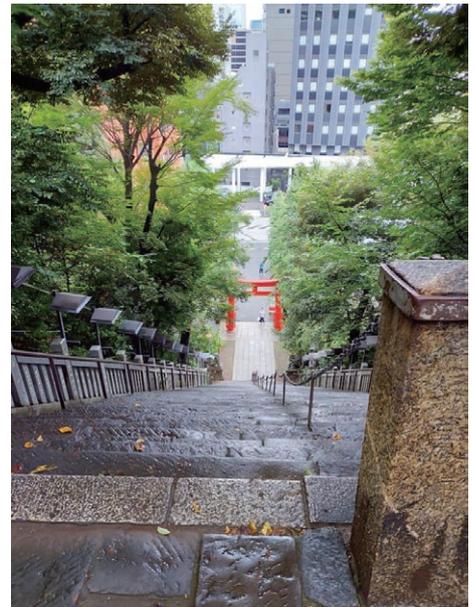
そのあとはご自由に飲みにいかれてください。

先ほどが聖なる階段なので、今度は俗の極みの階段です。それはJR大森駅そばにある山王小路飲食店街、通称地獄谷(大田区山王2-2界隈)という飲み屋街へと通じる階段で、3か所あります。谷底で飲みすぎると這い上がれないということからついたあだ名が地獄谷。以前は階段ではなく、未舗装の急な斜面だったのでこのように呼ばれたそうです。階段を上りきると池上通りに面しており、道路とJRの線路との間に位置します。

中には尼僧が人生相談に乗ってくれるバーがあったそうですが今はコロナ禍でどうなのでしょう。私も谷底にすっぽりはまってみたいのですが門前仲町の辰巳新道のようなところで、どうも一見さん一人では行きにくくて。どなたかご一緒に如何ですか？

尚、この辺り帯はバスがひしめき合っていて通っており、都市計画事業が動き出している様子。この光景もいつまで見られるかわかりません。

近くには教科書でお馴染み、大森貝塚があります。



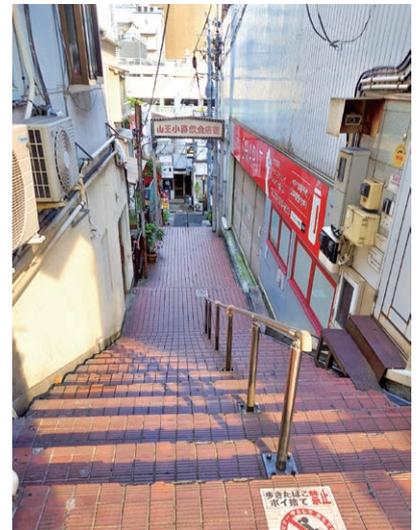
新橋愛宕神社上



地獄谷1



地獄谷2



地獄谷池上通りより

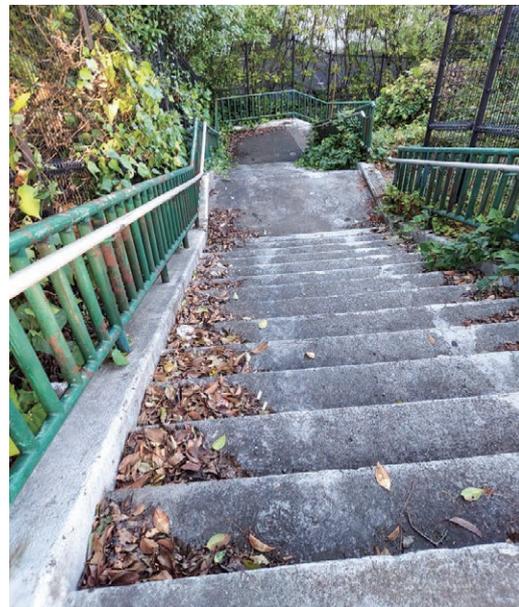
次にご紹介するのは車で走っていて気になる場所。大田区の国道一号線(以下R1)と環状七号線(以下環七)とが交わる松原橋近辺。R1を走っているとほぼ平坦な道ですが、環七左折の道路標識があります。では、環七が地下を走るのかと言えばそうでもありません。谷を走る環七を崖の上を跨ぐような感じで、R1の松原橋があります。ここは日本初の立体交差だそうです。

以前から気になって散策してみると、車がループ状におりていく脇には階段が整備されています。周りの建物は谷底から生えていたりします。また、R1周辺は急斜面となっていて急な坂道やら階段があちこちに見受けられます。

ちなみにR1は第二京浜とも呼ばれていて、略して「ニコク」。ひとつ海寄りを走るR15は第一京浜で「イチコク」。なので地図を頼りに車を走らせていたころは何が何だかちんぷんかんぷんでした。自分では国道一号線を走っているつもりなのに、歩道橋に第二京浜って書いてあるんですよ！ラジオをつけると交通情報で、「第二京浜上りは松原橋を先頭に2キロの渋滞」なんて言っていますしね。新人営業マン時代の思い出です。カーナビだとこういうことは起きませんね。



R1下り松原橋手前

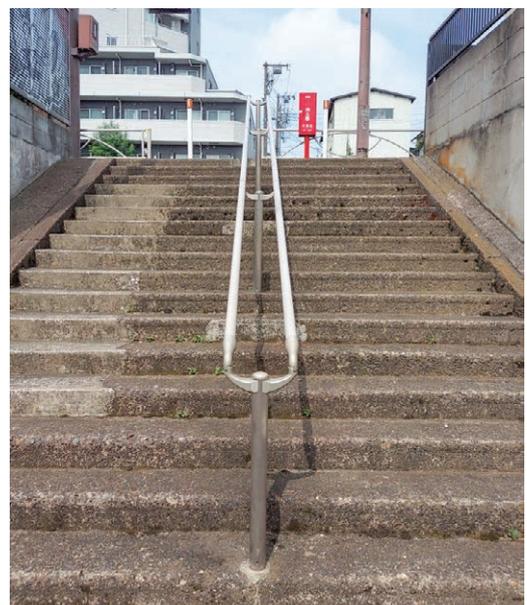


松原橋階段

近くには馬込文士村があります。大正末期から昭和初期にかけて多くの文士、芸術家が関東大震災後に移り住み、交流を深めたそうです。作家では川端康成・倉田百三・宇野千代・村岡花子ら。清洲橋や箱根にある山のホテルの満開に咲き誇るつつじを描いた版画家川瀬巴水など。おすすめは日本画家川端龍子記念館(大田区中央4-2-1)。アトリエや第二次世界大戦で落とされた爆弾によって自宅の庭に穴が開いた光景を描いた「爆弾散華」という作品の舞台となった爆弾散華の池。爆弾が落ちた場所から水が湧いたそうです。このような珍しい自宅跡を見ることが出来ます。



大田区HPより松原橋



立体馬込付近

最後は通勤途中に気になった港区高輪の桂坂界限です。高輪ゲートウェイ駅から明治学院大学へと向かう坂の頂には高野山別院があり、ここには四国巡礼八十八か所がほんの数分でお参りのできるコーナーがあります。お賽銭も一か所で済むので小銭いらずという有難い霊場です。

この坂道の両端もあちらこちらに家々へと降りる階段があります。

大学の建物も素敵ですし、高輪警察署の向かいにある消防署(高輪消防署二本榎出張所 高輪2-6-17)の建物も見の価値あります。



高野山別院

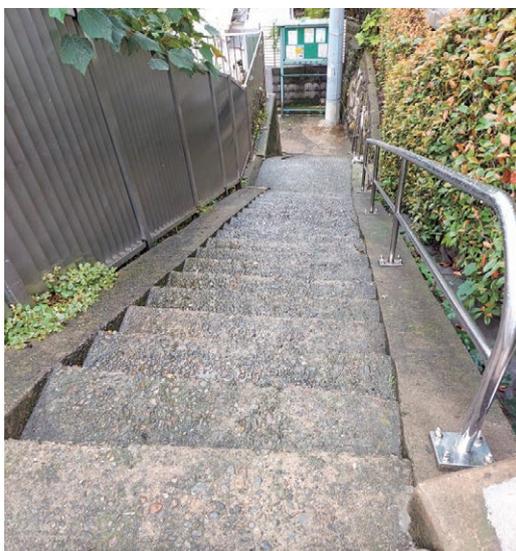


高野山別院四国巡礼

とまあ、身近な階段をいくつか見てまいりました。まだまだご紹介したい階段はございます。

坂には上り坂・下り坂・まさか、というのがあるそうです。階段は上り階段・下り階段・油断、というのは如何でしょうか。油断して足を踏み外したが、踊り場で救われたとか。

人生は階段のように登り詰めたらあとは下るだけ……とはならないようにしたいですね。



高輪の住宅地へと続く階段



高輪の住宅地へと続く階段2